第9回オンライン読書茶話会

東経大図書館企画

（最終版）

2021年9月11日（土曜日）

午後4時－午後5時30分　Zoom Meeting

進行役：高津秀之（西洋史）米山高生（経営史）

読書茶話会にようこそ！

オンライン読書茶話会の特徴（二部構成）

I. 季刊『読書のいずみ』（大学生協）に掲載されている書籍を選書し、それを読んで語り合う場。
- **気軽な発言**を歓迎。
- 学習ゼミでないので、**気の利いた結論がなくても大丈夫**。
- **読んでいない方の出席も歓迎します。**

II. ゲストを招待して、読書にかかわるインタビューと談話会。
- 読書や書籍に関連するゲストを招待する企画です。
- 第9回は、今年の5月に新書を公刊された**京都大学人文研の小関隆氏**を講師としてお招きしました。
- イギリスの1960年代は、現代社会にまで通じる変化の「発信源」となっています。東京オリンピックが1964年。日本も1960年代は大きな変化を迎えます。事前に講師の本を読んでおくと興味が広がることでしょう。

オンライン読書茶話会のリンク先

- 9月11日（土曜日）東経大オンライン読書茶話会のリンク先は以下の通りです。
- トピック: TKUオンライン読書茶話会
- 時間: 2021年9月11日 04:00 PM 大阪、札幌、東京
- Zoomミーティングに参加する
- https://us02web.zoom.us/j/84491198984?pwd=UnFBWk5MWXN2OXpBcXIkM1JiNm5XUT09
- ミーティングID: 844 9119 8984
- パスコード: 116852

- 図書館長（米山）のアドレス：**yone@tku.ac.jp**

季刊『読書のいずみ』は図書館でも配布しています。

右側の建物が東経大の図書館です。1階にオンライン読書茶話会のコーナーが設けてあり、季刊『読書のいずみ』が無料配布されています。

第9回オンライン読書茶話会プログラム

1. はじめに
2. 自己紹介（所属とお名前　1人15秒）
3. 『読書のいずみ』No167夏号から選んだ本の読後感想（35分）
4. 企画：ブックトーク　小関隆氏（京都大学人文研）　（40分）
   『イギリスの1960年代：ビートルズからサッチャーへ』中公新書、2021年5月について語る
   司会：米山　パネリスト：学生の方から
   レジュメ希望の方は事前配布します。yone@tku.ac.jp まで。
5. 次回の予告

いずみスタッフの読書日記

4月初旬

落ちた。１次面接に落ちてしまった。朝井リョウ『**何者**』（新潮文庫）を18歳の時に読んで「お祈りメール」が存在することは知っていたが、まさか自分が受け取る番になってしまったとは。この本は今も本棚に並んでいるが、怖くてパッタリと読む気が起きなくなってしまった。

4月中旬

漫画を読むようになった。出版系の企業研究のために漫画を何冊か買った。小学生の時はジャンプ漫画ばかり読んでいて親から漫画禁止令が出た。ところが、中学生の時に父の仕事の都合で台湾へ引っ越し、私のお小遣いで日本の本は気軽に買えなくなってしまった。これがきっかけで、文字が詰まってて、一冊で何時間も読書を楽しめる小説の「コスパの良さ」に心奪われ、私の漫画人生は一旦幕を閉じた。今回久々に手に取った漫画は「コスパが悪かった」。というのも、山口つばさ『**ブルーピリオド**』（講談社 アフタヌーンKC）は要領の良さが売りの優等生な主人公が泥臭く美大受験を目指していく姿が、とてつもなく心に刺さって、１巻から９巻を３日間で、号泣しながら一気読みしてしまった。帯の推薦文に「おすすめのスポ根マンガ！」とあって、「え、私スポ根だったの?!」と心底信じられなかったが、よく思い返せば、１週間に一言しか話さない超無口＆無表情の父が唯一目頭を押さえていたのは、弟の誕生時ではなく、野球のスポ根漫画だったので、私にもスポ根素質のDNAがあるのかもしれない。

4月下旬

私にはもう怖かったものがもう一つある。スギとヒノキの花粉である。血液検査をしたところ、アレルギー反応が判定値を超えていた。外出するだけで死を感じるが、花粉症が死因で通夜のお経を読まれるのだけは避けたい。あさのあつこ『**金色の野辺に唄う**』（小学館文庫）では大おばあちゃんがひ孫に看取られながら亡くなるところから始まる。残された人々の人間模様も面白いのだが、亡くなる時、「ひゅるひゅる、ひゅるひゅる」と言って魂が肉体を離れていく様子が一番印象に残っている。小説も漫画も、登場人物の目線から自分の知らない世界を眺めることができる。さらに数年後にまた読み返すと、もっと深い世界に浸ることができ、これはもうお値段以上と言っても過言ではない。さて、魂の分離はまだ想像できないが、走馬灯にどの光景が選ばれるのだろうか。そういえば来年の今頃は新社会人になっているのか。期待と不安をのせて春が過ぎ去って行った。

（お茶の水女子大学大学院M2　木村真央）

4月初旬

落ちた。１次面接に落ちてしまった。朝井リョウ『**何者**』（新潮文庫）を18歳の時に読んで「お祈りメール」が存在することは知っていたが、まさか自分が受け取る番になってしまったとは。この本は今も本棚に並んでいるが、怖くてパッタリと読む気が起きなくなってしまった。

朝井リョウの『何者』を経営学部1年生の内田さんが選書しました。
最初は、現代学生気質が描かれているの青春物語だと思ったのですが、全編読むと、読書のいずみスタッフの木村さんが「怖い」というのが分かるような気がします。（米山）

『52ヘルツのクジラたち』についてもっとおはなししませんか？

季刊読書のいずみは次のURLから閲覧できます。
https://www.univcoop.or.jp/fresh/book/izumi/index.html

座・対談@オンライン

夢をかなえるチカラ
～祝『52ヘルツのクジラたち』本屋大賞受賞～

町田 そのこさん（小説家）×

■町田そのこ（まちだ・そのこ）
1980年生まれ。福岡県在住。「カメルーンの青い魚」で、第十五回「女による女のためのR-18文学賞」大賞を受賞。2017年に同作を含む『夜空に泳ぐチョコレートグラミー』（新潮社）でデビュー。2020年発売の『52ヘルツのクジラたち』（中央公論新社）は、『王様のブランチ』BOOK大賞2020受賞、読書メーター OF THE YEAR 2020および2021年本屋大賞でともに第1位に選ばれる。

その他の著書に『ぎょらん』『コンビニ兄弟―テンダネス門司港こがね村店―』（新潮社）、『うつくしが丘の不幸の家』（東京創元社）がある。

©中央公論新社

インタビュアー
木村 真央（お茶の水女子大学大学院M2）
畠中 美雨（京都大学大学院M2）
品田 遥可（金沢大学4年生）
徳岡 柚月（京都大学4回生）
岩田 恵実（名古屋大学4年生）
内田 充俊（東京経済大学3年生）

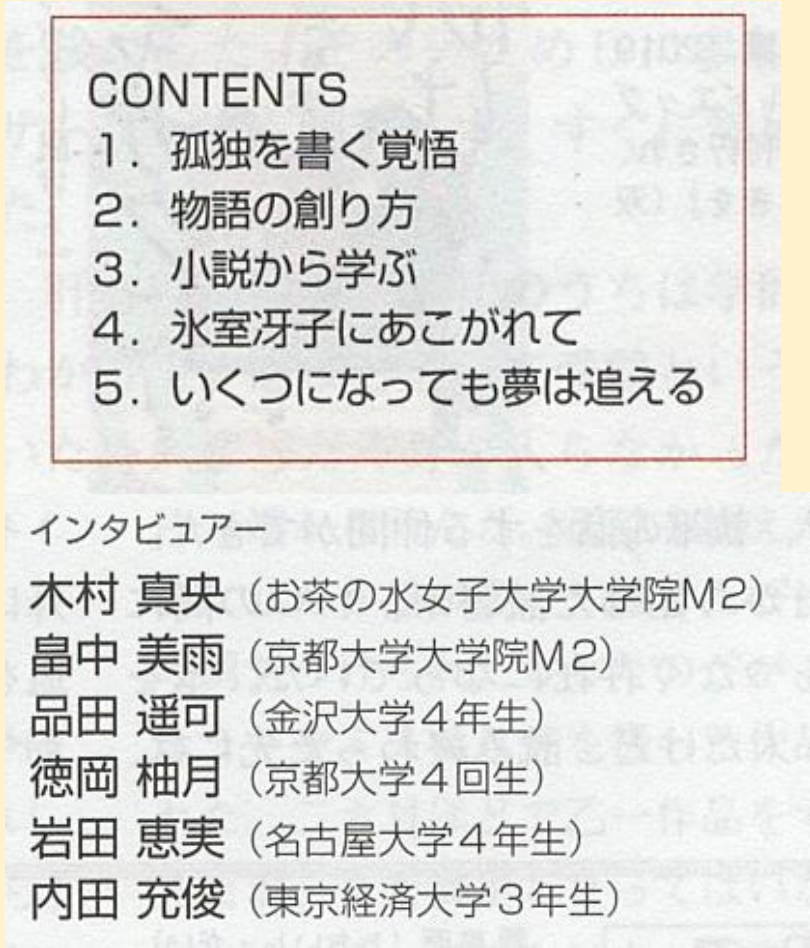
CONTENTS
1．孤独を書く覚悟
2．物語の創り方
3．小説から学ぶ
4．氷室冴子にあこがれて
5．いくつになっても夢は追える

町田そのこ
『52ヘルツのクジラたち』
中央公論新社／定価1,760円（税込）

『52ヘルツのクジラたち』のサイン本を5名の方にプレゼントします。「読者はがき」または『読書のいずみ』Webサイトにてご応募ください。

応募締め切りは8月10日。当選の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

サイン本プレゼント！



CONTENTS
1．孤独を書く覚悟
2．物語の創り方
3．小説から学ぶ
4．氷室冴子にあこがれて
5．いくつになっても夢は追える

インタビュアー
木村 真央（お茶の水女子大学大学院M2）
畠中 美雨（京都大学大学院M2）
品田 遥可（金沢大学４年生）
徳岡 柚月（京都大学４回生）
岩田 恵実（名古屋大学４年生）
内田 充俊（東京経済大学３年生）

企画　ブックトーク
近著『イギリスの1960年代について』を語る
講師：小関隆（京都大学人文科学研究所教授）

司会：米山高生
とくにパネリストを決めていませんので、ご自由に発言ください。

『リヴォルヴァー』ジャケット，1966年

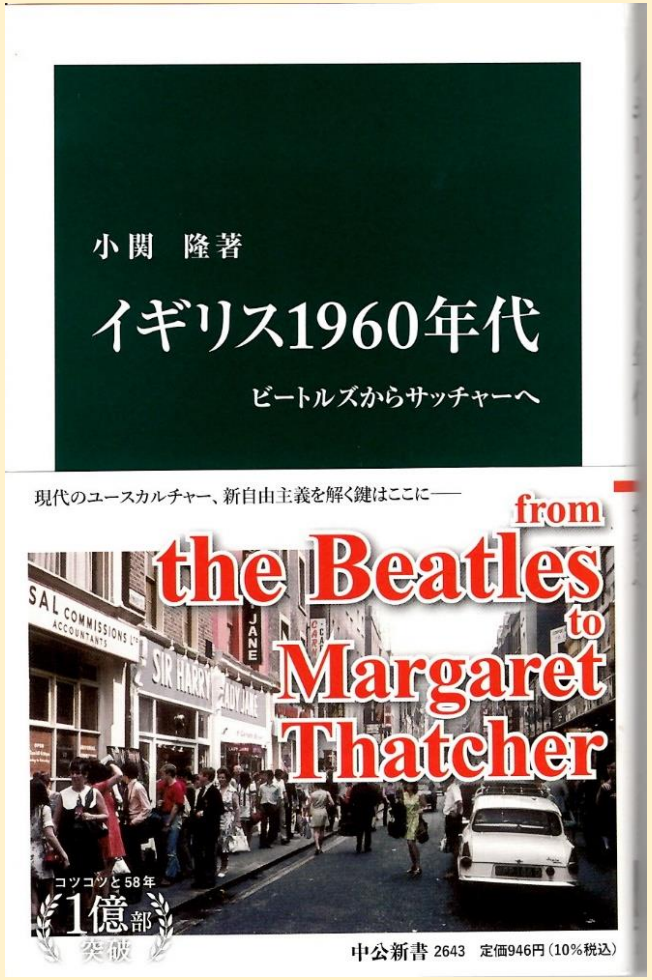
初当選の頃のマーガレット・サッチャー

（出典）『イギリスの1960年代』より引用

小関隆（こせき・たかし）

1960（昭和35）年東京都生まれ．84年一橋大学社会学部卒業，88年バーミンガム大学歴史学修士，91年一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学．東京農工大学，津田塾大学助教授を経て，2003年京都大学人文科学研究所助教授・准教授．博士（社会学）．15年より京都大学人文科学研究所教授．専攻，イギリス・アイルランド近現代史．

著書『一八四八年――チャーティズムとアイルランド・ナショナリズム』（未來社，1993年）
『世紀転換期イギリスの人びと――アソシエイションとシティズンシップ』（人文書院，2000年）
『プリムローズ・リーグの時代――世紀転換期イギリスの保守主義』（岩波書店，2006年）
『近代都市とアソシエイション』（山川出版社，2008年）
『徴兵制と良心的兵役拒否――イギリスの第一次世界大戦経験』（人文書院，2010年）
『アイルランド革命1913-23――第一次世界大戦と二つの国家の誕生』（岩波書店，2018年）



なぜ新しい文化と政治は1960年代に生まれたか

イギリス1960年代
小関 隆／著

第2次世界大戦後のベビーブームを背景に、若者文化が花開いた1960年代。中心にはビートルズが存在し、彼らの音楽・言動は世界に大きな衝撃を与えた。他方、サッチャー流の新自由主義も実はこの時代に胚胎（はいたい）した。今なお影響を与え続ける若者文化と新自由主義の象徴は、なぜイギリスで生まれたか——。本書は、ファッション、アートなどの百花繚乱、激動の社会とその反動を紹介し、1960s Britainの全貌を描く。

当日のレジュメ送らせていただきます。読書のたすけにしていただければ幸いです。学生さん中心ですが、興味のある方は、学生、元学生を問いませんので、どんどんご質問ください。

今後の予定

- 次回は季刊『読書のいずみ』No168 秋号を読後感想の選書対象としたいと思います。
- 発行後一定の時間が必要なので、第10回の開催は、10月中旬以降を考えています。
- 次回の企画は、近刊『バッハ』音楽之友社の著者である、久保田慶一先生にお願いしようかと考えています。